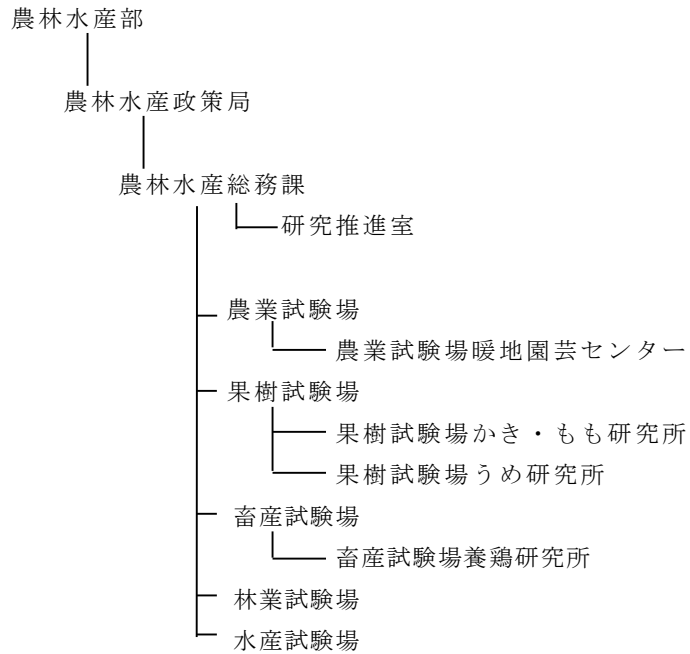


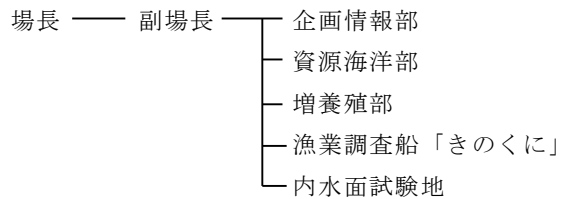
水産試験場概要

I 機構と組織

1. 機構



2. 内部組織



3. 職員の構成

区 分	行政職	研究職	計
場長		1	1
副場長		1	1
企画情報部		2	2
資源海洋部		6	6
増養殖部	1	5	6
漁業調査船	7		7
内水面試験地		4	4
	8	19	27

4. 職員と事務分担

部名	職名	氏名	事務分担
	場 長	岩橋 恵洋	場の総合企画及び総括に関すること
	副場長	森 康雅	場長の補佐, 人事, 服務, 庁舎の管理, 予算の総括に関すること
企画情報部	部 長	樫山 晃晴	部の総括・企画調整, 流通対策, 庶務, 成果の公表・普及に関すること
	研究員	大野 弘貴	藻場造成(ホンダワラ類)・魚礁調査に関すること
資源海洋部	部 長	木下 浩樹	部の総括・企画調整, 漁海況速報に関すること
	主任研究員	高橋 芳明	漁業資源・漁場調査と情報提供(総括), まき網漁業に関すること
	主任研究員	安江 尚孝	資源管理・回復推進, 船びき網漁業, 卵稚仔調査に関すること
	主査研究員	山根 弘士	高度回遊性魚類(カツオ), カツオマップ, 高度回遊性魚類(マグロ類)に関すること
	副主査研究員	陶山 公彦	海洋観測, 資源管理・回復推進に関すること
	副主査研究員	小川 満也	高精度海況図, 海況日報作成, 水産重要種の移動・回遊に関すること
増養殖部	部 長	葦澤 崇博	部の総括・企画調整, 飼育施設等の保守管理に関すること
	主任研究員	諏訪 剛	漁場環境(生物モニタリング), 介類増養殖, 魚礁調査(投石)に関すること
	主 査	佐々木明生	調査研究の補助, 船舶「なぎ丸」・海上筏の管理に関すること
	副主査研究員	内田 廉	藻場造成(コンブ目), スマの種苗生産・養殖に関すること
	副主査研究員	武田 崇史	魚類種苗生産・養殖, 栽培漁業に関すること
	研究員	賀集 健太	水産衛生対策, 漁場環境(赤潮・貝毒)に関すること
漁業調査船 (きのくに)	船 長	住谷 勝志	船舶の管理・運航, 海洋観測調査, 飼育施設等の保守管理に関すること
	機関長	岸 幸一	〃
	主査機関士	平見 謹一	〃
	主査機関士	堀 浩一	〃
	副主査航海士	半田 憲生	〃
	機関士	藤田 真宏	〃
	航海士	西 博	〃
内水面試験地	主査研究員	内海 遼一	アユ資源, 飼育試験に関すること
	主査研究員	河合 俊輔	水産衛生対策, アユ冷水病対策に関すること
	副主査研究員	北村 章博	ウナギ資源に関すること
	副主査研究員	平野 育生	内水面漁業・養殖技術指導に関すること

Ⅱ 業務

1. 試験研究項目一覧

単位（千円）

事業名又は課題名	財源内訳				
	予算額	国庫	使用料・手数料	諸収入	一般財源
水産試験場費	111,142	29,322	1,848		79,972
水産試験場運営	58,365				58,365
内水面試験地運営	4,060		1,848		2,212
調査船運航	6,126				6,126
シロアマダイの種苗量産技術の開発	2,600				2,600
漁業資源・漁場調査と情報提供	18,471	18,471			
マルアジの脂質含量と鮮度の研究	1,934				1,934
餌料仔魚を給餌しないスマ種苗生産技術の開発	1,577				1,577
水産衛生対策	1,544	772			772
魚類病害微生物の定量的検出技術の開発	1,900				1,900
海域の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響調査	1,000	1,000			
アユ資源量に関する基礎調査	500				500
抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発	973				973
～早期実用化への試み～					
シラスウナギ来遊量調査	500	500			
環境収容力推定手法開発	1,266	1,266			
主要藻場モニタリング調査	400				400
高度回遊性魚類調査（マグロ）	7,313	7,313			
低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発	1,613				1,613
新規漁場開発と資源調査	1,000				1,000
水産業振興費	2,055				2,055
資源管理・回復推進（資源管理課）	1,331				1,331
漁場環境保全等モニタリング（資源管理課）	82				82
栽培漁業推進（水産振興課）	642				642
漁業調整費	54				54
漁業・遊漁調整（資源管理課）	54				54
漁業構造改善費	571				571
漁場効果調査（水産振興課）	571				571
	113,822	29,322	1,848		82,652

Ⅲ 業績

1. 外部に発表した事項

(1) 一般雑誌 なし

(2) 書籍 なし

(3) 学会等の発表

題 名	発 表 者	発 表 誌
・ 紀伊水道および紀伊水道外域におけるマルアジの脂質含量の季節変動	武田崇史 安江尚孝	水産増殖
・ 和歌山県富田川水系高瀬川で採取されたユスリカと貧毛類の DNA-Barcoding による同定	北村章博 浜口昌巳	南紀生物
(4) 委託事業報告書等刊行物		
1) 漁海況速報（週刊）		
2) 人工衛星画像海況速報（2021-No.32～135、2022-No.1～32）		
(5) 農林水産省研究会等資料		
題 名	発 表 者	発 表 誌
・ 2021 年におけるカツオひき縄春漁の経過	山根 弘士	令和 3 年度水産資源評価・調査推進事業第 1 回カツオ SU 推進検討会資料
・ 2021 年のカツオ漁況について	山根 弘士	令和 3 年度水産資源評価・調査推進事業第 3 回カツオ SU 推進検討会資料
・ 和歌山県におけるシイラの漁業種類別水揚量の比較と漁獲漁場水温	山根 弘士	令和 3 年度太平洋中・南ブロック資源海洋研究会
・ 令和 3 年度中央ブロック資源評価および第 1 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報について	安江 尚孝 高橋 芳明 陶山 公彦	平成 3 年度中央ブロック資源評価会議および第 1 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議資料
・ 平成 3 年度瀬戸内海ブロックにおけるサワラ、カタクチイワシ・マダイ等の資源評価について	安江 尚孝 山根 弘士	平成 3 年度瀬戸内海ブロック資源評価会議資料
・ 令和 3 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ、アジ、サバ等の長期漁海況予報および資源評価について	安江 尚孝 高橋 芳明 陶山 公彦	平成 3 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議、資源評価調査担当者会議資料
・ 紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明について	諏訪 剛	令和 3 年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源の及ぼす影響の調査」計画検討会議資料
・ 紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明について	諏訪 剛	令和 3 年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源の及ぼす影響の調査」結果検討会議資料
・ 人工産アユの抱卵個体で発生した出血を伴う不明病について	河合 俊輔	第 35 回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会
・ 令和 3 年度養殖衛生管理技術者養成本科基礎コース研修	内海 遼一	同研修資料
・ 令和 3 年度養殖衛生管理技術者養成本科実習コース研修	河合 俊輔	同研修資料

修		
・和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環境の把握	北村 章博	令和 3 年環境収容力推定手法開発事業ウナギ課題計画検討会資料
・和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環境の把握	北村 章博	令和 3 年環境収容力推定手法開発事業ウナギ課題年度末報告会資料

(6)新聞掲載

記事見出し（内容）	掲載年月日	掲載誌名
・毛糸巻いたレンガ活用 県水産試験場 ヒジキの移植技術開発	2021. 5. 16	日高新報
・カツオケンケン漁好調 コロナ禍で安値続く 紀南主要 3 漁港	2021. 5. 28	紀伊民報
・浮き魚礁で標識付け放流 県水産試験場	2021. 8. 13	紀伊民報
・10 年目の調査開始 串本沖 メタンハイドレート	2021. 8. 24	紀伊民報
・特選アジの出荷基準に 県水産試験場 脂質含量判定指標を作成	2022. 2. 17	日高新報
・紀南のカツオ不漁 地元漁師 燃料代高等で「二重苦」	2022. 3. 20	紀伊民報

(7)水産試験場成果発表会（Web 動画配信）

配信期間

令和 4 年 2 月 22 日～3 月 22 日

内 容（発表題目、講演者及び発表者）

成果発表

・和歌山県におけるスマ種苗生産技術の開発	増養殖部	内田 廉
・抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発	内水面試験地	河合 俊輔
・ヒジキの移植技術の普及	企画情報部	大野 弘貴
・マルアジの脂質含量の研究	資源海洋部	高橋 芳明
実践活動報告		
・干潟を活かす漁業者の取り組みが地域の環境保全活動に広がった～和歌浦干潟の潮干狩り場復活に 取り組んだ 10 年間～	和歌浦漁業協同組合青年部	横田 邦雄

2. 研修生・見学者の受け入れ

(1)研修生の受け入れ なし